

基本計画書

基本計画										
事項		記入欄						備考		
計画の区分		学部の学科の設置								
フリガナ設置者		ガッコリジツン アサヒダ イガク 学校法人 朝日大学								
フリガナ大学の名称		アサヒダ イガク 朝日大学								
大学本部の位置		岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1								
大学の目的		本大学は、教育基本法並びに学校教育法の趣旨を尊重してその条項に従い、一般教養及び専門学術の理論並びにその応用を教育研究し、知的、道徳的教養をもつ有為の人材を育成するとともに、広く知識を世界にもとめ、教育、学術研究の国際交流をはかり、高度の教育目的を達成し、学術、文化の向上と社会の発展に寄与することを目的とする。								
新設学部等の目的		保健医療学部救急救命学科では、保健医療学部の教育研究目的に基づき、病院前救急医学に関する諸知識及び救急・災害医学に精通し、人を思う心をもって人間関係を構築する力、自己研鑽をして未来を切り開く力、社会に貢献しうる変革する力を持ち、人の痛みや苦しみに目を向け、専門的知識・技術の水準を維持する能力と態度を身につけ、救急指定病院（救命救急センター等）、救急搬送サービス、大規模災害等において活躍できる救急救命士を養成することを目的とする。 また近年需要が高まっている病院救急救命士（医療機関に搬送されるまでの間のみならず、医療機関に到着し当該医療機関に入院するまでの間においても、救急救命処置を行う救急救命士）の育成にも力を入れる。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	
	保健医療学部 救急救命学科	年	人	年次	人	学士 (救急救命学)	保健衛生学関係 (看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)	令和7年4月 第1年次	岐阜県瑞穂市 穂積1851番地の1	
	計	4	40	—	160					
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	保健医療学部 救急救命学科	講義	演習	実験・実習	計	124 単位				
		61 科目	14 科目	9 科目	84 科目					
新設	学部等の名称		基幹教員				助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
			教授	准教授	講師	助教	計	人	人	
	保健医療学部救急救命学科		6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	2 (2)	0 (0)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）		6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）		6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			
	計		6 (6)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	12 (12)			2 (2)

大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人

既	法学部法学科	7 (7)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	17 (17)	大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数 9人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	5 (5)	4 (4)	0 (0)	16 (16)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)			
	小計(a～b)	7 (7)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	17 (17)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	7 (7)	5 (5)	5 (5)	0 (0)	17 (17)			
設	経営学部経営学科	16 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	16 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	16 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	16 (16)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	21 (21)			
分	保健医療学部看護学科	9 (9)	6 (6)	6 (6)	10 (10)	31 (31)			1 (1)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	6 (6)	6 (6)	10 (10)	31 (31)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	9 (9)	6 (6)	6 (6)	10 (10)	31 (31)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	9 (9)	6 (6)	6 (6)	10 (10)	31 (31)			
分	保家医療学部健康スポーツ科学科	11 (11)	3 (3)	9 (9)	1 (1)	24 (24)			0 (0)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	3 (3)	9 (9)	1 (1)	24 (24)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a～b)	11 (11)	3 (3)	9 (9)	1 (1)	24 (24)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a～d)	11 (11)	3 (3)	9 (9)	1 (1)	24 (24)			

既 設 分	歯学部歯学科		27 (27)	21 (21)	27 (27)	52 (52)	127 (127)	2 (2)	584 (584)	大学設置基準別表第一に定める 基幹教員数の四分の三の 数 80人	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		27 (27)	21 (21)	27 (27)	52 (52)	127 (127)	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計（a～b）		27 (27)	21 (21)	27 (27)	52 (52)	127 (127)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計（a～d）		27 (27)	21 (21)	27 (27)	52 (52)	127 (127)				
計		70 (70)	40 (40)	47 (47)	63 (63)	220 (220)	3 (3)			— (—)	
合 計		76 (76)	43 (44)	50 (49)	63 (63)	232 (232)	5 (5)	— (—)			
職 種		専 属			そ の 他			計			
事 務 職 員		170 人 (170)			119 人 (119)			289 人 (289)			
技 術 職 員		3 (3)			0 (0)			3 (3)			
図 書 館 職 員		4 (4)			4 (4)			8 (8)			
そ の 他 の 職 員		592 (592)			199 (199)			791 (791)			
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)			
計		769 (769)			322 (322)			1,091 (1091)			
校 地 等	区 分	専 用	共 用		共用する他の 学校等の専用			計			
	校 舎 敷 地	25,409.43 m ²	105,551.28 m ²		0 m ²			130,960.71 m ²			
	そ の 他	8,410.48 m ²	12,999.00 m ²		0 m ²			21,409.48 m ²			
	合 計	33,819.91 m ²	118,550.28 m ²		0 m ²			152,370.19 m ²			
校 舎	専 用	50,325.09 m ² (50,325.09m ²)	1,864.83 m ² (1,864.83m ²)		1,670.34 m ² (1,670.34m ²)			53,860.26 m ² (53,860.26m ²)		朝日大学歯科衛生士 専門学校（必要面積 860m ² ）と共用 収容定員：240人	
	共 用										
教室・教員研究室		教 室		54	教 員 研 究 室			6 室			
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕 冊		学術雑誌 〔うち外国書〕 種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種		機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 図書 265,841冊 学術雑誌 3,248種 電子ジャーナル 7,163種 データベース 7種
	保健医療学部 救急救命学科	19,702 [2,735] (19,582 [2,685])	611 [112] (541 [62])		15 [5] (15 [5])		5 [5] (5 [5])		866 (866)	8 (8)	
	計	19,702 [2,735] (19,582 [2,685])	611 [112] (541 [62])		15 [5] (15 [5])		5 [5] (5 [5])		866 (866)	8 (8)	
スポーツ施設等		スポーツ施設			講堂		厚生補導施設				
		5,711.85 m ²			0 m ²		8,323.69 m ²				
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には学術雑誌、データベース等の整備費（運用コスト）を含む。	
		教員1人当り研究費等		555千円	555千円	555千円	555千円	0千円	0千円		
		共同研究費等		4,777千円	6,057千円	7,801千円	9,545千円	0千円	0千円		
		図書購入費	6,828千円	7,194千円	4,350千円	4,499千円	4,669千円	0千円	0千円		
	設備購入費	133,826千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円	0千円			
	学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,425千円	1,125千円	1,125千円	1,125千円	0千円	0千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等									

大学等の名称	朝日大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員率 充足率	開設年度	所在地	
既設大学等の状況	法学部 法学科	4	80	—	320	学士 (法学)	0.92 0.92	昭和62年	岐阜県瑞穂市穂積 1851番地の1	
	経営学部 経営学科	4	100	—	400	学士 (経営学)	1.13 1.13	昭和60年		
	保健医療学部 看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	0.97 1.12	平成26年		
	健康スポーツ科学部 健康スポーツ科学科	4	120	—	480	学士 (健康スポーツ科学)	0.88	平成29年		
	歯学部 歯学科	6	140	—	840	学士 (歯学)	1.00 1.00	昭和46年		
	法学研究科 法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45 0.45	平成4年		
	経営学研究科 経営学専攻	2	10	—	20	修士 (経営学)	0.30 0.30	平成7年		
	歯学研究科 歯学専攻	4	18	—	72	博士 (歯学)	1.05 1.05	昭和52年		
	<p>1. 名称：朝日大学病院 目的：歯学は医学の基盤の上に立つべきであるとの理念に基づき、全身、特に頭頸部を包含した歯科医学の育成と、診療を通じて歯科医学並びに関連医学の教育及び研究を行う。 所在地：岐阜県岐阜市橋本町3丁目23番地 設置年月：昭和48年5月 規模等：土地 6,424.14㎡、建物 25,627.49㎡ (附属施設) 所在地：岐阜県岐阜市若宮町1丁目6番地 規模等：土地 1,986.34㎡、建物 3,126.08㎡</p> <p>2. 名称：朝日大学医科歯科医療センター 目的：一般患者の診療及び学生の臨床実習並びに歯科医師臨床研修に資するため、臨床歯科医学を総合的に教育・研究し、併せて地域医療に貢献する。 所在地：岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1 設置年月：昭和46年5月 規模等：土地 12,999.00㎡、建物 8,906.39㎡</p> <p>3. 名称：朝日大学PDI岐阜歯科診療所 目的：一般患者の診療及び学生の臨床実習並びに歯科医師臨床研修、歯科医師臨床研修を修了した者を対象とした2年目の歯科医師臨床研修に資するため、臨床歯科医学を総合的に教育・研究し、併せて地域医療に貢献する。 所在地：岐阜県岐阜市都通5丁目15番地 設置年月：昭和54年7月 規模等：土地 25,409.43㎡、建物 1,031.35㎡</p> <p>4. 名称：法制研究所 目的：法学部の教育研究の向上、活性化及び法制度への貢献並びに地域社会の発展に寄与する。 所在地：岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1 設置年月：昭和63年4月 規模等：建物 90.09㎡</p> <p>5. 名称：産業情報研究所 目的：経済、産業、企業、情報等に関し経営学の研究を通じて地域社会の発展に貢献する。 所在地：岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1 設置年月：昭和63年4月 規模等：建物 25.75㎡</p> <p>6. 名称：マーケティング研究所 目的：効果的なマーケティング手法の開発研究を通じて学生教育への活用及び地域社会の発展に貢献する。 所在地：岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1 設置年月：平成14年4月 規模等：建物 61.76㎡</p>									
	附属施設の概要									

<p>附属施設の概要</p>	<p>7. 名称：口腔科学共同研究所 目的：歯科医学に関する学理及びその応用の総合的研究を共同で行い、我が国斯界の発展に寄与する。 所在地：岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1 設置年月：平成5年4月 規模等：建物 1,781.22㎡</p> <p>8. 名称：歯科医師臨床研修センター 目的：歯科医学教育の質の向上を図る。 所在地：岐阜県瑞穂市穂積1851番地の1 設置年月：平成23年7月 規模等：建物 53.28㎡</p>	
----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 空欄には、「－」又は「該当なし」と記入すること。

教育課程等の概要																
(保健医療学部救急救命学科等)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員
人間形成とスポーツ	建学の精神と社会生活・リベラルアーツ教育	1前	○	2			○			1					6	オムニバス
	アスリートの生活とキャリア	1・2・3・4前					○								3	オムニバス
	スポーツ文化とスポーツのモラル	1・2・3・4後					○								3	オムニバス
	チームワーク演習	2・3・4前						○							3	オムニバス
	スポーツとチームの運営	2・3・4後					○								2	オムニバス
	健康・体力科学	1・2・3・4後					○								1	
	教養スポーツⅠ	1・2・3・4前													2	
	教養スポーツⅡ	1・2・3・4後							○						2	
	キャリア形成Ⅰ	2前		4				○		1					1	
	キャリア形成Ⅱ	2後		4				○		1					1	
小計(10科目)		—	—	10	12	0			—	1	0	0	0	0	14	
人と文化	哲学	1・2・3・4後			2		○								1	
	歴史学	1・2・3・4後			2		○								1	
	心理学	1・2・3・4前			2		○								1	
	法学	1・2・3・4後			2		○								1	
	経済学	1・2・3・4後			2		○								1	
小計(5科目)		—	—	0	10	0			—	0	0	0	0	0	5	
科学的思考の基礎	物理学	1後			2		○								1	
	化学	1前			2		○			1						
	生物学	1前			2		○				1					
	統計学	1前			2		○								1	
	小計(4科目)		—	—	0	8	0			—	1	0	1	0	0	2
社会生活と異文化コミュニケーション	異文化理解	1・2・3・4後			2		○								1	
	コミュニケーション論	1・2・3・4前			2		○								1	
	プレゼンテーション論	1・2・3・4前			2		○								1	
	英語Ⅰ	1前		1				○							2	
	英語Ⅱ	1後		1				○	○						2	
	英語コミュニケーションⅠ	1前		1				○	○						2	
	英語コミュニケーションⅡ	1後		1				○	○						2	
	英語コミュニケーションⅢ	2前			1			○	○						2	
	英語コミュニケーションⅣ	2後			1			○	○						2	
小計(9科目)		—	—	4	8	0			—	0	0	0	0	0	4	
人と情報	情報リテラシー	1前			1			○							1	
	数理・データサイエンス	1後			1			○							1	
小計(2科目)		—	—	2	0	0			—	0	0	0	0	0	1	
基礎ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	1前	○		1			○		2	1	2				
	基礎ゼミナールⅡ	1後	○		1			○		2	1	2				
	小計(2科目)		—	—	2	0	0			—	2	1	2	0	0	0
専門基礎科目	解剖学Ⅰ	1前	○		2			○		1						
	解剖学Ⅱ	1後	○		2			○		1						
	生理学Ⅰ	1後	○		2			○							1	
	生理学Ⅱ	1後	○		2			○							1	
	生化学	1後	○		2			○		1						
小計(5科目)		—	—	10	0	0			—	2	0	0	0	0	2	

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部救急救命学科等)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
専門基礎科目	疾患の成り立ちと回復の過程	2後 1後 1前 3前	○ ○ ○	2 1 2			○ ○ ○								1 1 1		
	小計(4科目)	—	—	5	2	0	—			0	0	1	0	0	3		
	健康と社会保障	2後 2後	○ ○	2 2			○ ○								1 1		
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—			0	0	0	0	0	1		
	健康科学	1・2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 2・3・4前 2・3・4後 2・3・4前 1・2・3・4前 1・2・3・4後 3・4前 2・3・4後 3・4前 2・3・4前 3・4前			2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2			○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○		○					2 2	2 1 2 1 1 1 1 1	オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス オムニバス
	小計(13科目)	—	—	0	26	0	—			2	0	0	0	0	11		
	専門科目	救急医学概論	1後	○	2			○									
		救急救命処置概論Ⅰ	2前	○	2			○									
		救急救命処置概論Ⅱ	2後	○	2			○									
		生命倫理と医の倫理	1前	○	1			○			1						
		小計(4科目)	—	—	7	0	0	—			1	0	1	0	0	0	
		救急病態生理学Ⅰ	2前	○	2			○				2	1				オムニバス
		救急病態生理学Ⅱ	2後	○	2			○			1						オムニバス
救急症候学Ⅰ		3前	○	2			○					2					
救急症候学Ⅱ		3前	○	2			○			1							
救急症候学Ⅲ		3前	○	2			○					1					
小計(5科目)		—	—	10	0	0	—			2	2	2	0	0	0		
疾病救急医学Ⅰ		2前	○	2			○			1		1				オムニバス	
疾病救急医学Ⅱ		2前	○	2			○			1							
疾病救急医学Ⅲ	2後	○	2			○				1							
疾病救急医学Ⅳ	2後	○	1			○								1			
疾病救急医学Ⅴ	2後	○	1			○								1			
小計(5科目)	—	—	8	0	0	—			2	1	1	0	0	2			
外傷救急医学Ⅰ	2前	○	2			○			1								
外傷救急医学Ⅱ	2後	○	2			○			1								
小計(2科目)	—	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0	0			

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健医療学部救急救命学科等)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外(の教員)		
専門科目	環境障害・急性中毒学	3前	○	2			○			1							
	小計(1科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	
	災害医療論	3前	○	1			○			1							
	災害危機管理学	3前	○	2			○			1							
	小計(2科目)	—	—	3	0	0	—	—	—	1	0	0	0	0	0	0	
	統合演習Ⅰ	4前	○	2				○		1							
	統合演習Ⅱ	4後	○	2				○		1	1						
	小計(2科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	1	0	1	0	0	0	0	
	救急救命シミュレーション実習Ⅰ	1前	○	2					○		3	1			2		
	救急救命シミュレーション実習Ⅱ	1後	○	4					○		3	1			2		
	救急救命シミュレーション実習Ⅲ	2前	○	4					○		3	1			2		
	救急救命シミュレーション実習Ⅳ	2後	○	4					○		3	1			2		
	救急救命シミュレーション実習Ⅴ	3前	○	4					○		3	1			2		
	救急車同乗実習	3後	○	1					○		1	2	1		2		
	救急救命病院実習	3後	○	6					○		2	2	1		2		
小計(7科目)	—	—	25	0	0	—	—	—	4	3	1	0	2	0	0		
合計(84科目)				—	—	100	66	0	—	—	6	3	3	0	2	40	
学位又は称号	学士(救急救命学)			学位又は学科の分野					保健衛生学関係(看護学関係及びリハビリテーション関係を除く。)								
卒業・修了要件及び履修方法									授業期間等								
必修科目から100単位、教養基礎科目の選択科目から14単位以上、専門基礎科目の選択科目から10単位以上を修得し、124単位以上を修得すること。 (履修登録科目の上限: 46単位(年間)) なお、教養基礎科目の選択科目のうち、物理学、化学、生物学、統計学から4単位を選択必修とする。									1学年の学期区分				2期				
									1学期の授業期間				15週				
									1時限の授業の標準時間				90分				

(注)

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(保健医療学部救急救命学科)				
科目 区分	授業科目の名称	主要 授業 科目	講義等の内容	備考
人間 形成とスポ ーツ 教養基礎科目	建学の精神と社会生活 ・リベラルアーツ教育	○	<p>（概要）高等教育機関としての大学、特に私立大学にはそれぞれその大学が何を目的として設立されたのかという目的・使命があり、これを「建学の精神」として掲げている。本学の建学の精神は、「国際未来社会を切り開く社会性と創造性、そして、人類普遍の人間の知性に富む人間を育成する。」ことである。</p> <p>本講義では、今後、4年間の学習を進めるにあたり、朝日大学が何を目的・使命としてこの地に設立されたのか理解し、今後の人生の指標、キャリア形成を考える機会とする。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （調書番号00 大友克之／1回） 朝日大学創立者の「夢」と建学の精神、沿革について学ぶ。 （調書番号03 江尻貞一／11回） 地域及び国際社会についての理解を深め、グローバルな観点から、朝日大学の学生として、また社会の一員として果たしていくべき役割と責任を考える。 （調書番号11 森下伊三男／1回） エネルギーと環境、資源について学ぶ。 （調書番号12 高梨文彦／0.5回） 「主権者教育」をテーマに民主主義について学ぶ。 （調書番号13 平田勇人／0.5回） 「消費者教育」をテーマに責任能力について学ぶ。 （調書番号14 矢守恭子／0.5回） 情報リテラシー（ネットワーク作法）について学ぶ。 （調書番号15 米田真理／0.5回） 国語リテラシー（文書作法）について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	アスリートの生活とキャリア		<p>自身の可能性に挑戦し続けるアスリートがより合理的に高いパフォーマンスを発揮するために、トレーニング、栄養摂取、休養といった日常生活活動をどのように整備すべきかについて基本的知識を身に付けることを最初の目的とする。</p> <p>次に、社会生活にも目を向け、将来に向けたキャリア形成についても併行して考え、社会人としての基礎的能力を身につけてゆくための意欲を啓発する。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （調書番号35 新井祐子／7回） 社会生活とキャリア （調書番号42 市ヶ谷廣輝／4回） スポーツ選手の生活管理 （調書番号51 梅野 聡／4回） スポーツ選手の精神衛生、パフォーマンスに影響する外的要因</p>	オムニバス方式
	スポーツ文化とスポーツのモラル			<p>スポーツ全般についての文化的価値を理解させるとともに、スポーツ・インテグリティの知識を身に付けさせ、これを維持・強化してゆく姿勢を養う。スポーツの文化的価値を多角的に学びスポーツが高潔で価値あるものであることを認識させる。</p> <p>また、スポーツに関わる者としてのモラルやマナーについて正しい知識を身につけさせる。さらには、スポーツを行う組織やそれらが接する外部の社会との関係にも目を向け、良好な関係を築くための考えを深める。</p> <p>これらの学びを通して、スポーツの良さ、素晴らしさを考える。</p> <p>（オムニバス方式／全15回） （調書番号16 林卓史／7回） スポーツマンシップとフェアプレー、差別とハラスメント （調書番号42 市ヶ谷廣輝／4回） スポーツが身体、精神、人間社会にもたらす効果 （調書番号51 梅野 聡／4回） スポーツの歴史、ルールについて考える</p>

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
人間形成とスポーツ 教養基礎科目	チームワーク演習		<p>(概要) 本授業科目は、スポーツにおけるチームワークを題材に、卒業後に社会の一員として様々な人々と関わりながら生活するうえで最も重要なコミュニケーション能力と協働の精神を養うことを目的とする。第一に、他者と良好な関係を築いてゆくために必要な言語コミュニケーションの知識を身につけその技能向上を目指した各種のワークに取り組む。次に、情報を収集し課題を発見する能力、課題解決に向けて仲間と協働してゆくための方法を学びその技能を身につけるワークに取り組む。最終的には、与えられたケースに対して、多様なメンバーとチームを形成し課題を発見し解決に向けたアイデアを創出するワークショップを行う。これらの体験と学習を通して、コミュニケーションと協働のスキルを身につけさせる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号17 築瀬歩/7回) KJ法、マトリックスを使用した思考法 (調書番号36 角田和代/4回) アイスブレイクと自己紹介ワーク (調書番号43 岩佐直樹/4回) 議論・ディベートのトレーニング、グループワークの基本</p>	オムニバス方式
	スポーツとチームの運営		<p>本授業科目は、スポーツチームをはじめとした組織や集団をその目的遂行のためによりよくマネジメントしてゆくための知識と技能を養うことを目的とする。</p> <p>スポーツは、たとえ個人種目であっても組織や集団単位で行われる活動であり、そこには規模の差はあれども必ずマネジメントが必要となる。マネジメントは、トップの者だけが身につければ良い知識や技能ではなく、組織の成り立ち一人ひとりが身につけて当事者意識を持って関与することが求められる。</p> <p>そこで、スポーツに関わる組織集団のマネジメントに必要な基本的知識を身につけ、マネジメントの観点を持って組織に関わってゆく態度を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号17 築瀬歩/8回) チームワークとは、チームの目標、雰囲気作り (調書番号36 角田和代/7回) スポーツチームの存在価値</p>	オムニバス方式
	健康・体力科学		<p>日本は今までにない高齢社会をむかえ、健康についての意味も大きく変わりつつある。このような急速な社会の変化に対応するためには、一人一人の健康に対する意識の改革が必要不可欠である。実際に、長い人生をより豊かにするためには、高い身体適性や体力を保有しつづける必要がある。</p> <p>また、それを実現するためには学生である今から将来の自分自身の健康について考える必要がある。よって、学生生活の身近なキーワードをテーマとして取り上げることで、自分の健康について考えることができる講義を展開していく。</p> <p>その中で、多くの健康に関する氾濫した情報について正しく判断していくことも身につけてもらいたい。</p>	
	教養スポーツⅠ		<p>教養スポーツⅠは、前学期に開講する実技科目である。メディカルチェックや体力測定を行い自身の能力を把握し、定期的なスポーツ活動を行うことで豊かな学生生活を送るための体力を一定水準まで高め、将来の社会生活を充実させる能力や態度を養うことを目的とする。</p> <p>卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、フェンシングの5種目を開講する。(種目は事情により変更することがある。)</p>	
	教養スポーツⅡ		<p>教養スポーツⅡは、後学期に開講する実技科目である。スポーツⅠで高められた体力や技術を基に、より高い水準や技能の習熟を目指すことを目的の一つとしている。生涯にわたる豊かなスポーツライフへの導入となることを期待する。</p> <p>卓球、バドミントン、バスケットボール、バレーボール、フェンシングの5種目を開講する。(種目は事情により変更することがある。)</p>	
	キャリア形成Ⅰ		<p>本授業科目では自分の将来を見据えながら中身の濃い学生生活を送り、自らが考え行動することができるよう各自のエンプロイアビリティ(どこにでも通用する職業能力、雇用されるだけの能力)を高めていくための意識づけや訓練を行うとともに、救急医療の現場の実態や救急救命士として求められる人材像などを理解する。</p>	
	キャリア形成Ⅱ		<p>本授業科目は、キャリア形成Ⅰでの学びを基盤に、各自のエンプロイアビリティをより高めていくための学習を行う。将来を考え、自分を見つめ、自分をアピールできるようにしたい。救急救命士になるための基礎をしっかりと築き、自信をもってしっかりと自分をアピールできるようにすることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
教養基礎科目	哲学		<p>哲学という学問領域では、様々な哲学者が様々な問題について考察しており、問題関心もアプローチの方法も多様である。</p> <p>この科目では古代ギリシアから現代までの哲学を扱い、哲学者をおおよそ時代順に取り上げて解説することで、西洋哲学を通史的に理解することができるようにする。</p> <p>また、それぞれの哲学者が何を問題にし、どのようなアプローチを行い、どのような解決を試みたのかという思考の足跡をたどることで、哲学がどのような営みなのかについてのイメージをもつことができるようにする。</p>	
	歴史学		<p>世界近現代史に関する基礎的知識を修得することを目標として、①資本主義的世界体制、②重商主義の時代、③産業革命の時代、④帝国主義の時代、⑤第一次世界大戦について講義する。</p> <p>今日ヨーロッパは我々にとって最早追い付き追い越す目標ではなくなったかのようなのである。我々は、従来のヨーロッパ中心的な歴史観を改める必要に迫られている。</p> <p>本授業科目では、世界を一つのシステムとしてとらえる最近の傾向を紹介しながら、あらためて我々にとってヨーロッパとは何かを再考してみたい。</p>	
	心理学		<p>心理学は「心」を「科学」する学問である。しかし「心」という物質があるわけではない。解剖学的に「心」を取り出して示すことはできない。しかし「心」には、いろいろな「はたらき」があり、その「はたらき」の結果として、いろいろな「行動」が起こっている。この「行動」は、観察することができる。したがって、心理学は人間の行動を科学的に解明しようとする学問であるといえる。</p> <p>本授業科目では、人間を理解するための基礎となる諸現象を、幅広く、実証的事実に基づいて学ぶ。</p>	
	法学		<p>物事を法的・論理的に考え、的確に判断する能力（リーガル・マインド）を養うため、基礎的な法知識を修得して、その解釈適用を基本判例を通じて学ぶ。</p> <p>「法」を意味するドイツ語のRecht（レヒト）は、同時に「権利」という意味もあるので、「法」と「権利」は一体のものといえる。このRechtには「正義」という意味もある。つまり、本来、法や権利はひとつの正義が実現されたものであり、法を学ぶ目的は、正義とは何かを考えることでもある。</p> <p>本講義では、最高法規である憲法を中心に、法学全般にわたり学修する。</p>	
	経済学		<p>「ミクロ経済学」、「マクロ経済学」の枠組みから、大学生として身に付けておくべき基本的な知識を網羅的に概説する。</p> <p>ミクロ経済学では、消費者、企業の行動、さらに市場の機能や価格決定メカニズム等について学び、マクロ経済学では、財政政策、金融政策の概要を理解した後、インフレ、デフレがどのように引き起こされるのか、また景気対策などについても学ぶ。</p> <p>さらに国際経済についても触れておくこととしたい。</p>	
科学的思考の基礎	物理学		<p>人体の動きから人体内部の生命現象にいたるまで、物質が関与する現象は物理学の原理に従っている。救急救命の現場において装置、器械、器具を適切に効率良く行うためには、その物理的な特性を理解しておかなければならないし、医療行為により生体を受ける物理的的刺激や生理的反応も知っておかなければならない。</p> <p>このため本授業科目では医療や人体に関連した物理的な現象や事象を積極的に取り入れ、洞察力や思考力を高めつつ、主体的に関わり、科学的に解釈しようとする態度の修得も図る。</p>	
	化学		<p>私たちは実に様々な物質に囲まれている。医療の現場では多くの「医薬品や薬剤」を取り扱い、また、私たちの「体」そのものも物質である。これらの物質が何からできており、どのような性質を持つかを考える分野が『化学』である。</p> <p>特にこの講義では、主として私たちの「体」とこれを維持するために日々摂取している「食物」に焦点をあて、これら物質を構成する糖質、脂質、タンパク質、無機質などの基本的な性質や構造、生体内での機能を学ぶ。講義を通じて化学物質の名称に親しみ、物質の成り立ちや性質、からだに関連する物質などの知識を身につけることにより、専門基礎科目の理解を深める手助けとしたい。</p>	
	生物学		<p>生物学は現在も急速に進展している学問である。生物に共通する現象や基礎的事項を理解することは、ヒトを対象とした医療に携わる者として重要なことである。</p> <p>本授業科目では、はじめに生物に共通する細胞や分子に関することを学ぶ。その後、ヒトの体の構造と機能ならびに体の恒常性維持や生体防御機構を学び、さらにヒトの特性についても学修する。</p> <p>生物に関する理解を深めることによって、豊かな学識を持った医療人となることを目標とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
科学的思考の基礎	統計学		疫学は人間集団の健康に影響する因子を特定・解明することを目的とする。そのための疫学調査・研究の分析には、測定や診断の有効性を客観的に評価するために統計学(Statistics)の知識が不可欠になる。 本授業科目では、推測統計学の基本的な考え方である推定および検定の理論を学び、医療・保健統計学で実践する統計的手法の基礎を理解する。	
	異文化理解		本講義の目的は、多様性(ダイバーシティ)を理解することにある。グローバル化による他国民・異民族との異文化接触のみならず、日本国内における多様な文化背景を持つ人々との関わり合いについて考える。 特に医療場面における同僚および患者の持つ“自分とは異なる”文化的背景に気づき、配慮し、尊重するための基礎的な知識と技量を身につけることを目標とする。	
社会生活と異文化コミュニケーション 教養基礎科目	コミュニケーション論		コミュニケーションは明確な意志と目的を持って行われ、その成果が問われる。以後の活動に大きな影響を与えるため、効果性を考慮しつつ、伝える内容や方法を緻密に計画しなければならない。 コミュニケーションは受動的な交わりであり、発信者の刺激に受信者が反応しなければ成立しない。これは、すべてのコミュニケーションに共通した要点である。この観点では、発信者が意図しない刺激によっても、それに受信者が反応すればコミュニケーションは成立してしまう。 情報技術の発展により、今やあらゆる活動がメッセージとなり、他者に伝わる。このため広告などの意志を持つメッセージはもちろん、意志を持たないものにも配慮しなければならない。 このような環境において行われるべきコミュニケーションについて学ぶ。	
	プレゼンテーション論		プレゼンテーション能力は、ビジネスのあらゆる局面で必要とされるベーシックな能力である。 この授業科目では、発表や説明などの実施ではなく、その前段階にある準備に学修の重心を置く。 プレゼンテーションの要点は、相手に伝えることではなく、相手に伝えることである。きわめて受動的な作業である。言葉に物理的な形はなく、後には何も残らない。視覚や聴覚などの五感を通じて、情報が相手に伝わり、感情や行動に変化を促すことがプレゼンテーションの目標である。 そのためにはインパクトが必要であり、どうすればインパクトを相手に与えられるのか。この課題は、しっかりと事前準備することでしか解決できない。事前準備の重要性を認識し、理解を深めることを目的とする。 あわせて、本授業内では聴衆の前で簡単なスピーチ(100秒スピーチ)を行い、プレゼンテーションの感覚を味わう機会を設ける。	
	英語Ⅰ		第1学年前期に履修する英語の1つであり必修である。 英語が苦手な学習者でも興味を持って取り組めるような授業を進める。高等学校までの学習内容を復習し、英語の4技能をバランスよく修得することを目的とする。 授業では文法の練習問題だけでなく歌やチェンツによる英語のリズム練習やビデオ視聴によるリスニングの練習、英語ニュースの長文など様々な活動を組み合わせて行う。	
	英語Ⅱ		この授業では、会話演習をペア・ワーク、グループワーク、インタビュー形式で行います。演習を共同で達成する喜び、伝える力と聞き取る力を含めた総合的なコミュニケーション能力が確実に向上していく喜びを味わえる授業です。 日常生活のさまざまなトピックで、会話の聞き取りを中心にじっくりと基礎を固め、着実にリスニングとスピーキングの力を向上させるのがこの授業の目的です。	
	英語コミュニケーションⅠ		基礎的なコミュニケーション・スキルの修得を目標に授業を行う。 発音練習、聴解練習を通じて英語の発音やリズム、イントネーションに慣れ、コミュニケーション場面に求められる基礎力を養う。 コミュニケーション場面などを例に用い、実際に必要とされる基本的な口頭表現練習を通じて、発音や会話で求められる定型表現に慣れるための指導を行う。	
英語コミュニケーションⅡ		グローバル化が進む今日において、日常生活の中でもいたるところで英語でのコミュニケーションが必要と思われる場面に遭遇する。 授業では英語コミュニケーションⅠを基盤に、日常生活にて想定されるシチュエーションごとの会話の流れに沿った表現の学修とその実践を中心に行うが、ただ単に会話表現を学ぶだけではなく、感情豊かに(適切に)表現できるようトレーニングを行う。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
社会生活と異文化コミュニケーション	英語コミュニケーションⅢ		英語コミュニケーションⅠ・Ⅱの内容を発展させ、実際のコミュニケーション場面に求められる力を養う。 英語コミュニケーションⅠ・Ⅱよりも多くの場面などを例に用い、実際に必要とされる口頭表現練習を発展させ、定型表現練習とともに即興的なやりとりに必要な素地を養うための練習を行う。	
	英語コミュニケーションⅣ		英語コミュニケーションⅢまでの学習を通じて修得した基本的な英語コミュニケーション・スキルを基に、より実践的で応用を可能とするコミュニケーション・スキルの修得を目標とする。授業では様々なシチュエーションでの会話の表現の学修とその実践を行う。	
人 と 情 報	情報リテラシー		パソコン基本ソフトの操作、文書作成ソフトや表計算ソフトによる基本的な文書や表などの作成・編集操作について学修する。 また、インターネットを活用した電子メールの送受信、情報の検索・収集、情報倫理、著作権を中心とした情報法規、情報セキュリティなどについて基本的な考え方を修得する。	
	数理・データサイエンス		デジタル社会において、様々な状況で発生する多様なデータを扱うための基本的な考え方を学修し、ICTを活用したデータの適正なハンドリング（収集・加工・分析など）の能力を養う。 そのために、データ分析の技術として基本となる表計算ソフトをより高度に使いこなす技術、統計及び数理基礎や基礎的なアルゴリズムを修得しながら、プログラミング的思考法を身につける。	
基礎ゼミナール	基礎ゼミナールⅠ	○	本大学での4年間の学びに必要なスキルや社会で求められる基礎的なスキルの修得を目的とする初年次の導入科目である。 まずディプロマ・ポリシー、カリキュラムポリシーを十分理解したうえで、各自の目標に沿った履修計画を立てることからはじまり、次いでレポート作成を通じた資料検索スキル、アカデミックライティングスキル、さらにテーマディスカッションを通じて、コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルを磨く。 授業は少人数クラスのゼミナール形式で行う。	
	基礎ゼミナールⅡ	○	基礎ゼミナールⅠの学習で身に付けた知識、スキルのブラッシュアップを図りながら、さらに問題発見能力、思考力、企画力、提案力を加えるための課題解決型の学習を行う。通常の授業は少人数クラスのゼミナール形式で実施するが、各クラスの意見まとめを経て、合同発表会も行う。	
専 門 基 礎 科 目	解剖学Ⅰ	○	解剖学では、救急救命の学問体系の基礎をなす人体の構造と機能について学ぶ。 Ⅰではそのために、まず生命を活用する人体の動物機能について、「からだの支持と運動」を骨格系と筋系に分けて学習する。次に生命を維持する人体の植物機能について、「血液とその循環」「栄養の消化と吸収」を脈管系と消化器系に分けて学習する。	
	解剖学Ⅱ	○	解剖学では、救急救命の学問体系の基礎をなす人体の構造と機能について学ぶ。 Ⅱでは人体解剖学を理解するため、呼吸器系、泌尿生殖器系、神経系、感覚器系および人体の発生に分けて講義を展開する。また、歯学部で行われている「人体解剖実習」を見学し、解剖体を観察し直接触れることで、理解を深める。	
	生理学Ⅰ	○	解剖学の学習と並行して、細胞から個体にいたる生体の機能について学習する。 Ⅰでは、神経系や運動器系といった動物系機能の生理学と生命活動に直結する体液（血液を含む）や循環器系といった植物系機能の生理学を中心に概説する。これらの機能は、いずれも生命維持に直結する大切な機能でありこれらの知識なしに、救急救命技術の上達はあり得ない。 本科目は本学科のすべての学習の礎となるものでもあり、真摯な学習が必要となる。	
	生理学Ⅱ	○	解剖学の学習と並行して、細胞から個体にいたる生体の機能について学習する。 Ⅱでは、呼吸器系・消化器系・内分泌系・泌尿器系・生殖器系などの植物系機能を中心に概説し、加えて身体内外の環境情報のセンサーである感覚器系の機能にも触れる。これらの機能は、いずれも生命維持に直結する大切な機能でありこれらの知識なしに、救急救命技術の上達はあり得ない。 本科目は本学科のすべての学習の礎となるものでもあり、真摯な学習が必要となる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	人体の構造と機能	〇	生化学 全身管理に必要な生命現象を物質レベルで理解し、それらを有機的に学ぶ。 生体構成成分である糖質、核酸、脂質、タンパク質の科学的性質を知り、代謝回転によるエネルギー産生機序や恒常性維持に必要な栄養素などを中心に物質の代謝機構を理解する。 また、生物ゲノムを理解し、遺伝物質としての核酸とその情報伝達機構についての理解を深め、基本的な遺伝子工学の手法と応用について考察する。	
		〇	薬理学 薬物に関する基本的事項（医薬品の定義、関連法令、保管管理）、生体における薬物の働き（主作用、副作用）、生体内での薬物の動き（吸収、分布、代謝、排泄）について学ぶ。 特に臨床現場で用いられている代表的な薬物の作用機序を取り上げ、有害作用と相互作用の回避について押さえておく。 さらに、薬物適用法と適用上の注意、小児、妊婦、高齢者における薬物治療、救急時の薬物治療、さらに医薬品開発のプロセスや臨床試験（治験）の精神についても理解する。	
		〇	病理学 病理学は、疾病の診断・治療について理解するために、疾病の原因が加わった時に、細胞、組織レベルでどのようなことが起きているのかを学ぶ学問である。 代表的な疾患の病態を説明できるようにすることを到達目標として、病理学の概念、病因論、病変の特徴、さらに健康障害に至る仕組みまで理解し、各器官の疾病を学んでいくための土台としたい。 また、人体に備わる病態からの回復機構や生態防御機構についても学ぶ。	
		〇	微生物・感染 感染症は依然として日常的に頻繁に遭遇する疾患である。 本授業科目では、感染症の原因となる細菌やウイルスなどの微生物の構造、性質、感染様式などについて学ぶ。微生物に対する生体の防御機構としての免疫の仕組みを知り、免疫と感染症の予防・治療や診断との関わりも理解できるようにする。 また、感染を防止する手段としての滅菌・消毒法や感染症の治療に用いられる抗菌薬の知識も修得する。このように微生物に関する理解を深めることによって、救急救命の現場で感染症に対応するための基礎力を養うこととする。	
		〇	疫学 疫学は医学分野における基本的な方法論である。 初期には公衆衛生の分野で、人間集団を対象とする研究において発展し、最近では臨床医学など他の分野でも利用されている。よって救急救命分野における基本的な方法論として学び、臨床の場でも積極的に利用されたい。 この授業科目では、疫学の基礎的な考え方、疫学で用いる基本的な用語の理解、疾病の原因と因果関係の推定、疫学指標、疫学研究のデザインと質の確保、スクリーニング検査について学び、応用編として臨床疫学、政策疫学、遺伝疫学、社会疫学、ライフコース疫学についても触れる。	
健康と社会保障	〇	保健統計学 保健情報の収集、分析及び統計的解析能力を養うことを目標に、公衆衛生活動に必要な全国的な調査（人口動態・静態統計、患者調査、医療施設調査など）について学び、その情報の活用法を身に付けたい。 また、疫学研究で用いる統計の基礎知識・データの解析法を理解し、公衆衛生活動において根拠に基づいたヘルスサービスを提供するための能力を身に付けたい。		
	〇	公衆衛生学 健康・疫学問題を単に個人的な問題としてではなく、個人を取り巻く環境・社会との関連において考え、その予防対策をたてることが重要である。 本授業科目では、我が国の保健統計指標の動向や意義、疾病予防、健康の保持増進、健康管理に関することのほか、食品衛生や感染症予防の基本的事項についても学ぶ。 また環境及び社会と個人の健康の観点から、環境汚染等とその対策なども取り上げる。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目 健康科学	スポーツ科学		<p>(概要) 保健医療分野における主要テーマの一つである「スポーツ」を科学的に理解するため、毎回いろいろな運動やスポーツの場面を取り上げて、医学、生理学、解剖学的な見地から科学的に解説、検証する。 またスポーツと社会の関わり、施策、人々の健康増進や事故防止への活かし方、救急救命士の心身の強化への活かし方についても理解できるよう、その歴史、哲学、社会学、マネジメント、コーチングについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号28 菅嶋康浩/6回) ヒトノゲムと生命倫理、アダプテッドスポーツ、安全、ウェアラブル機器の活用、スポーツ科学の企画 (調書番号49 高橋篤史/9回) スポーツ科学の目的、睡眠、運動不足の影響、栄養・ウェイトコントロール、各種動作の科学、コーチング</p>	オムニバス方式
	運動生理学		<p>運動生理学は、各種動作の過程で身体が生理的にどのような反応または適応をしているかを明らかにする学問であり、他の専門基礎科目とも有機的に繋がっている。 本授業科目では、特に運動系、神経系、呼吸器系、循環器系の運動・トレーニングに対する生理学的適応を中心に、怪我や障害に繋がるような救急救命士にとって有用なトピックを交えながら、運動生理学の基礎知識と応用について学ぶ。</p>	
	運動学		<p>(概要) スポーツ科学としての運動学の対象領域である「運動質論」、「運動発達論」、「運動学習論」について講義する。 他の専門基礎科目の知識が土台となる部分があり、相互の理解がより深まることが期待できる。①講義内容について十分に理解し、説明できるようになること。②毎回、提出するノートの平均点が80点以上の水準に到達することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号30 山本英弘/7回) 運動学の対象領域と研究方法、運動の観察と分析、運動の局面構造とリズム、運動の伝導と流動、運動の弾性と先取り、運動の正確性と調和、運動の質的カテゴリーと発達や学習との関係 (調書番号50 窪田友樹/8回) 乳児期から成熟期までの運動発達論、運動ゲシュタルト発生前から粗形態定着段階までの運動学習論、運動の自動化</p>	オムニバス方式
	メンタルマネジメント		<p>「意欲」、「自信」、「感情コントロール」、「集中力」、「リラクゼーション」、「イメージコントロール」、「コミュニケーションスキル」などについて解説するとともに、スポーツ選手たちへの指導事例を踏まえながら、各要素のマネジメントスキルを身につける。 これらを通じて、人間の行動を観察する能力、救急救命の対象者への心理的な支援が行えるようにするための知識と態度も併せて養うことを目的とする。</p>	
	スポーツバイオメカニクス		<p>本授業科目では、運動やスポーツなどにおける動きのメカニズムをバイオメカニクスの観点から解説し、その仕組みや、効率的な動き(上手く動くこと)を理解することを目的とする。 講義科目ではあるが、知識の詰めこみに終始することのないよう、その内容を確認するための実験や体験ができる機会をできるだけ多くしたい。 また、救急救命活動における動作などを事例として取り上げ、将来に役立てられる講義としたい。</p>	
	スポーツ生理学		<p>スポーツ生理学は、ヒトがスポーツをしている時、した後、あるいは継続する時からだがどのような反応や対応をしているかを明らかにする学問であり、環境や摂取する栄養も関連領域である。 また、能力向上、トレーニング、指導、健康づくりなどの種々の現場的、応用分野で不可欠な学問であって、本授業科目は生きた学問とすることを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目 健康科学	トレーニング論		<p>(概要) 本授業科目はトレーニングに関する正しい知識を習得し、かつ、実践に繋がる理論の修得を目指すものである。 年代・対象にあったトレーニングの実際についても紹介し、救急救命士が、地域社会の健康増進や自身の身体能力を障害を通して維持していくための科学的な根拠となることを目指して講義を行う。 期分けを含めたトレーニング計画やプログラムを作成し、説明できるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号32 竹島伸生/3回) 身体の仕事と働き、循環器系の働きとエネルギー供給、体力を構成する要素の体系 (調書番号33 梶山俊仁/6回) スポーツパフォーマンスの構造、トレーニングの手段・方法・原理・計画・アセスメント、休養 (調書番号45 禿隆一/6回) トレーニングの種類と各論(筋力・パワー、スピード、持久力、スキル)、スポーツバイオメカニクス</p>	オムニバス方式
	トレーニング演習		<p>(概要) 本授業科目では演習を通してトレーニングに関する理解を深めることを目指す。トレーニングを実践する上で必要な知識からトレーニングを実践した時に主体的にのぞめるよう工夫をする。 また、実践においては主に筋力トレーニングを学び、地域の健康増進のトレーニング指導や自身の身体能力を障害を通して維持していくための実践力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号30 山本英弘/7回) 自重トレーニング、無酸素・有酸素パワーについて (調書番号28 菅嶋康浩/4回) マントトレーニング (調書番号45 禿隆一/4回) 筋力アップ、筋持久力トレーニング</p>	オムニバス方式
	コンディショニング論		<p>コンディショニング論は、仕事やスポーツ競技などの活動でピークパフォーマンスを出すために講じる手段を理論的に学ぶ科目である。 心身に関することから環境まで幅広く取り扱い、コンディショニングの実践方法や工夫の仕方についても学ぶ。コンディショニングの方策を具体的に考えられるようになること、創意工夫ができるようになることを目標とする。</p>	
	ヘルスプロモーション		<p>(概要) ヒトの健康に関わる内外の要因や関連する事項について学ぶとともにヘルスプロモーションに関する最新のトピックスを取り上げて知識を整理し、これからの健康のあり方について考える。 加えて、運動と健康に関する知識を身につける。とりわけ運動やスポーツを中心に健康づくりに寄与できるための指導に関わる基本的能力や態度を身につけることを目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号32 竹島伸生/12回) 健康の定義とヘルスプロモーション、環境・適応、運動、安静の弊害、生活習慣病の疫学、運動療法、身体活動、Well-rounded exerciseとspecificity、疲労・休息、ライフステージ (調書番号05 今泉佳宣/1回) 生活習慣病と運動器障害 (調書番号01 小島孝雄/2回) 内科的疾患と健康診断の意義</p>	オムニバス方式
	健康運動論		<p>(概要) 人々の健康の維持、増進および生涯スポーツの普及と高齢者に至る幅広い層の対象者を指導する上で必要な運動指導に関わる基礎的な事項を学び、実際に運動やスポーツを指導することができる能力や態度を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (調書番号32 竹島伸生/13回) 健康づくりのための運動方法、Well-rounded exercise、基本運動プログラムの作成、虚弱高齢者への自立支援、運動効果の特性、最新の運動処方トピックス (調書番号05 今泉佳宣/1回) 運動障害と予防 (調書番号01 小島孝雄/1回) 運動プログラムの管理(心電図の基礎と運動負荷試験)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門基礎科目	健康科学			
	発育発達と老化		子どもから成人へと成長する過程における身体の発育や身体諸機能の発達を理解することは、保健医療に関わる者にとってたいへん重要なことである。また、成長期を経て高齢期に至る過程をどのように過ごすか考えることは、高齢化社会に突入した現代社会において生き方を模索するうえで大変有意義である。 そこで本授業科目では、誕生から成長期、さらには高齢期に到るまでの発育発達を、性差や個人差(早熟・晩熟)なども含めて正しく理解し、保健医療の従事者として至適に指導できるようになることを目的とする。	
	安全教育		社会生活において、自分や自分の周りの人々の安全を確保し、危機を回避するための知識や行動を身につけることは重要である。 本授業科目では、学校、スポーツ活動など様々なケースで起こりうる事件・事故の発生要因について、保健医療の観点から考察し、未然に防ぐ方法、起きてしまった場合の適切な対応方法など、安全を推進していくために必要な知識・行動について学ぶ。	
専門科目	救急医学概論	○	本授業科目では、救急医療に関する歴史、法令及び救命救急士の使命及び役割、メディカルコントロール制度、多職種コミュニケーションについて学ぶ。 また、これらの土台となる科学や医学の考え方を理解したうえで、救急救命の現場で行う処置の種類や内容、流れを概略的に学ぶ。 救急救命士の仕事を、より具体的にイメージできるようにする。	
	救急救命処置概論Ⅰ	○	救急医学概論で学んだ内容を基に、救急救命の現場で実際に行う処置について学ぶ。 Ⅰでは傷病者の観察(全身状態の観察、局所の観察、緊急度・重症度の判断、資機材による観察)及び急度・重症度の判断、気道確保、異物除去、吸引、気管挿管、酸素投与、人工呼吸、胸骨圧迫、除細動、静脈路確保などの処置の基本を学ぶ。 また、適応や合併症、医療事故対策についても理解する。	
	救急救命処置概論Ⅱ	○	救急救命の現場で実際に行う処置のうち、薬剤についての目的や作用・有害作用、吸収・代謝・排泄、投与方法を学ぶ。 さらに臨床検査について、各検査の目的や種類、方法等を学ぶ。	
	生命倫理と医の倫理	○	生命倫理や環境倫理など応用倫理学の概念は、科学技術の発展がもたらした諸問題に倫理的に対応しようとするものである。この講義では、生命倫理と医の倫理(インフォームド・コンセントを含む。)の基本的な考え方を理解するため、幾つかのガイドライン、そして健康と疾病、生命の価値、医療者－患者関係、患者の存在などについて学ぶ。また臨床倫理といわれる医療上の諸問題、すなわち終末期医療、生殖補助医療、人工妊娠中絶、脳死・臓器移植、安楽死・尊厳死などについても考え、授業科目を通じ、生命を倫理的な観点から考えられるようにする。	
救急症候・病態生理学	救急病態生理学Ⅰ	○	病態生理学の観点から、循環器、呼吸器及び消化器系の疾患の原因や特徴、メカニズムを詳しく理解し、その観察と評価、鑑別、処置及び搬送法までを系統的に学習する。 呼吸困難、喀血、発熱、胸痛、動悸・不整脈などのほか、高齢者に特有の疾患についても取り扱う。 (オムニバス方式/全15回) (調書番号10 川口智則/8回) 循環器の疾患の病態生理 (調書番号09 田尻下敏弘/3.5回) 腹部の疾患の病態生理 (調書番号③ 豊吉沙耶香/3.5回) 呼吸器の疾患の病態生理	オムニバス方式
	救急病態生理学Ⅱ	○	病態生理学の観点から、重症脳障害(脳ヘルニア含む。)やショックの原因や特徴、メカニズムを詳しく理解し、その観察と評価、鑑別、処置及び搬送法までを系統的に学習する。	
	救急症候学Ⅰ	○	救急症候学は、救急医療で遭遇する各種疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解したうえで、観察、評価、鑑別、判断、処置及び搬送上の注意等を系統的に学ぶ科目である。 Ⅰでは循環器及び呼吸器系など胸部の疾患を取り扱い、プレホスピタルの知識を統合する。 (オムニバス方式/全15回) (調書番号① 澤田仁/9回) 循環器の疾患の救急症候 (調書番号③ 豊吉沙耶香/6回) 呼吸器の疾患の救急症候	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
救急症候・病態生理学	救急症候学Ⅱ	○	救急症候学は、救急医療で遭遇する各種疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解したうえで、観察、評価、鑑別、判断、処置及び搬送上の注意等を系統的に学ぶ科目である。 Ⅱでは消化器系など腹部の疾患を取り扱い、プレホスピタルの知識を統合する。	
	救急症候学Ⅲ	○	救急症候学は、救急医療で遭遇する各種疾患の発症機序、病態、症状、所見及び予後等について理解したうえで、観察、評価、鑑別、判断、処置及び搬送上の注意等を系統的に学ぶ科目である。 Ⅲでは神経系の疾患を取り扱い、プレホスピタルの知識を統合する。	
疾病救急医学	疾病救急医学Ⅰ	○	各種疾病の発生要因と進展、自他覚症状の発現と変化を系統的に理解し、悪化防止や生命の危機回避のための救急処置の技能、観察方法等について学ぶ科目である。 Ⅰでは、消化器系、呼吸器系、循環器系の疾患を取り扱う。 (オムニバス方式/全15回) (調書番号01 小島孝雄/10回) 腹部及び循環器の救急医学 (調書番号③ 豊吉沙耶香/5回) 呼吸器の救急医学	オムニバス方式
	疾病救急医学Ⅱ	○	脳神経・感覚器、運動器、女性生殖系の疾患の発生要因と進展、自他覚症状の発現と変化を系統的に理解し、悪化防止や生命の危機回避のための救急処置の技能、観察方法等について学ぶ。	
	疾病救急医学Ⅲ	○	内分泌・代謝、造血器、腎・泌尿器系の疾患の発生要因と進展、自他覚症状の発現と変化を系統的に理解し、悪化防止や生命の危機回避のための救急処置の技能、観察方法等について学ぶ科目である。	
	疾病救急医学Ⅳ	○	各種疾病の発生要因と進展、自他覚症状の発現と変化を系統的に理解し、悪化防止や生命の危機回避のための救急処置の技能、観察方法等について学ぶ科目である。 Ⅳでは、精神系の疾患を取り扱う。	
	疾病救急医学Ⅴ	○	各種疾病の発生要因と進展、自他覚症状の発現と変化を系統的に理解し、悪化防止や生命の危機回避のための救急処置の技能、観察方法等について学ぶ科目である。 Ⅴでは、小児の疾患を取り扱う。	
外傷救急医学	外傷救急医学Ⅰ	○	救急医療の中の外傷医療について学ぶ。 外傷とは外力を受けたことによる損傷をいい、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を施す必要がある。外傷の疫学的要因、メカニズム(受傷機転)、発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解したうえで、観察、評価、鑑別、処置及び搬送上の注意点等について系統的に学ぶ。 Ⅰでは、一定以上の重症例や、頭頸部、胸部、腹部、脊椎・脊髄の外傷を取り扱う。	
	外傷救急医学Ⅱ	○	救急医療の中の外傷医療について学ぶ。 外傷とは外力を受けたことによる損傷をいい、損傷の種類や緊急度の評価により適切な処置を施す必要がある。外傷の疫学的要因、メカニズム(受傷機転)、発生機序、病態、症状、所見及び予後について理解したうえで、観察、評価、鑑別、処置及び搬送上の注意点等について系統的に学ぶ。 Ⅱでは、運動器外傷、小児・高齢者・妊婦の外傷を対象とする。	
環境障害・急性中毒学	環境障害・急性中毒学	○	溺水、熱中症、温度異常などの環境による障害や放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見及び予後等について理解し、観察、評価、鑑別、処置及び搬送法に関する事項(防止法含む。)を系統的に学ぶ。 また、中毒の原因物質と特徴についても学ぶ。	
災害医療学	災害医療論	○	救急医療では常に迅速な判断が求められるが、重症患者や生命の危機が高い患者が多数発生する災害現場では、より厳しい対応を迫られる。救急救命士の力量が人的被害の大小を左右するといっても過言ではない。 本科目では、近年の事例等を基に、災害医療の現状や課題について解説し、有事の際の行動について考えたい。	
	災害危機管理学	○	大規模自然災害や局地的災害に関する最近の事例をみても、救急救命医療における高い危機管理及び体制構築が求められることはいままでのない。 近い将来の大規模災害の発生が危惧される当地域における「災害被害の予測」、「その時医療スタッフはどう動くか」など、「危機管理」について講義する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
統合演習	統合演習Ⅰ	○	医学、救急救命学の授業や臨床実習を通じて修得した知識、技能を深化、統合し、アウトプットするための演習形式の授業を行う。	
	統合演習Ⅱ	○	統合演習Ⅰまでの学修の理解をより深めるための総合的な学習に加え、課題発見・情報収集・分析・検証能力を高めるための基礎的な研究方法について学び、初歩的な論文作成を行う。	
専門科目 臨床実習	救急救命シミュレーション実習Ⅰ	○	救急現場における観察法や判断、応急処置法、搬送の基本を学びながら、聴診器、血圧計や生体情報モニターなどの観察用器材や気道管理、呼吸管理、体位管理、体温管理等を行うための器材の基本的な使用方法を修得する。	
	救急救命シミュレーション実習Ⅱ	○	救急救命シミュレーション実習Ⅰで覚えた技術を高めながら、症候等に応じた、より専門的な救急救命処置について学んでいく。気道確保、気道異物除去、蘇生など技術の幅を広げ、各項目の技量を高めていく。シミュレーション訓練により、救急救命士になるための意識と緊張感を高める。	
	救急救命シミュレーション実習Ⅲ	○	救急救命シミュレーション実習Ⅱまでの学習で修得した技術の一層の習熟を図りながら、気管挿管、静脈路確保・輸液、薬剤投与など、技術の幅を拡げ、シミュレーション訓練を通じて、技量と意識レベルを高めていく。	
	救急救命シミュレーション実習Ⅳ	○	シミュレーション訓練を精度を高めながら繰り返し実施することで、知識と技術を磨いていく。症候に応じた的確な判断、対応ができるレベルを目標とする。	
	救急救命シミュレーション実習Ⅴ	○	総合シミュレーションを繰り返し実施し、これまで学んできたことの統合及び総合的実践力の修得を図る。救急救命処置のプロとして傷病者の苦痛軽減、症状悪化防止、生命維持ができるレベルまで高めていく。	
	救急車同乗実習	○	岐阜市消防本部管轄消防署において、救急用自動車に同乗する実習を行う。 出動待機、出動、現場活動、搬送、医療機関への引き継ぎ、救急事故への対応等の見学を通じて実際の救急医療の現場を知り、コミュニケーションやメディカルコントロールの重要性の理解を深め、疾病者に対する適切な接遇等を身に付ける。 さらに自身が救急救命士として適切に救急救命活動を実施するための視点を養う。事前・事後の指導を学内で行う。	
	救急救命病院実習	○	地域の救急医療機関における臨床実習を行う。 実際の救急救命処置を見学することで救急医療の現場を知り、チーム医療におけるコミュニケーションやメディカルコントロールの重要性、さらに疾病者に対する適切な接遇等についても学ぶ。 実際の症例に基づく指導を受けることで、各種病態や症候に関する理解をより深め、シミュレーション実習で学んだことの定着を図るとともに、観察、判断能力を磨く。また生命倫理についても考える機会とする。事前・事後の指導を学内で行う。	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものにつ
その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 3 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若し
を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする
この書類を作成する必要はない。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、
「科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」
すること。

学校法人朝日大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
朝日大学				朝日大学				
法学部				法学部				
法学科	80	—	320	法学科	80	—	320	
経営学部				経営学部				
経営学科	100	—	400	経営学科	100	—	400	
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	80	—	320	看護学科	80	—	320	
健康スポーツ科学科	120	—	480	健康スポーツ科学科	120	—	480	
				救急救命学科	40	—	160	学科の設置（認可申請）
歯学部				歯学部				
歯学科	140	—	840	歯学科	140	—	840	
計	520	—	2,360	計	560	—	2,520	
朝日大学大学院				朝日大学大学院				
法学研究科				法学研究科				
法学専攻（M）	10	—	20	法学専攻（M）	10	—	20	
経営学研究科				経営学研究科				
経営学専攻（M）	10	—	20	経営学専攻（M）	10	—	20	
歯学研究科				歯学研究科				
歯学専攻（4年制D）	18	—	72	歯学専攻（4年制D）	18	—	72	
計	38	—	112	計	38	—	112	